

令和6年6月25日
函館開発建設部

「第44回技術者交流フォーラム事業 in 函館」を開催

～インフラと観光《函館港の事例》～

函館開発建設部では、寒地土木研究所、日本技術士会北海道本部との共催で技術者交流フォーラムを開催します。

技術者交流フォーラムは、地域で求められる技術開発に関する情報交換、産学官の技術者交流及び連携を図る目的で、平成20年度から全道各地にて開催しています。

本フォーラムでは、「インフラと観光～函館港の事例～」と題して、最近の取組みなどについて紹介します。

記

1 開催日時 令和6年7月30日（火）13：30～17：00

2 開催場所 函館市民会館 小ホール

3 主な開催内容（詳細は別紙をご覧ください。）

基調講演『交流型地域におけるまちづくりとは

～観光とインフラの持続可能な関係のために～』

北海商科大学 商学部 観光産業学科

博士（観光学）

教授

池ノ上 真一 氏

4 定 員 200名（参加無料）

5 申込期限 令和6年7月25日（木）

6 申込方法 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所ホームページ
の「イベント情報」からお申込みください。

寒地土木研究所ホームページアドレス

<https://www.ceri.go.jp/event/>



【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 函館開発建設部 電話 0138-42-7685

技術管理課 課 長 福井 輝喜（内線 391）

課長補佐 高 浩行（内線 392）

函館開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/>





第44回 技術者交流フォーラム事業 in函館

インフラと観光 ～函館港の事例～

インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツの造成



参加無料

2024/7/30 (火) 13:30～

➤ 開会挨拶 (13:30～) 函館開発建設部長 岡下 淳

➤ 来賓挨拶 函館市長 大泉 潤 氏

➤ 基調講演

『交流型地域におけるまちづくりとは
～観光とインフラの持続可能な関係のために～』

北海商科大学 商学部 観光産業学科

教授 池ノ上 真一 氏

➤ 技術者の交流(展示・休憩)

➤ 一般講演

『函館港の整備と地域振興に向けて』

函館開発建設部 函館港湾事務所 所長 三岡 照之

『埋もれた地域資源を発掘し価値創造する取り組み事例』

公益社団法人日本技術士会 北海道本部 道南技術士委員会代表

兼 函館湾岸価値創造プロジェクト会長 布村 重樹

『魅力ある海辺の空間整備に向けたみなとまちづくり』

寒地土木研究所 地域景観チーム 研究員 榎本 碧

➤ 閉会挨拶 (16:50～) 寒地土木研究所長 井上 勝伸



(公社)土木学会 継続教育(CPD)
プログラム



認定番号: JSCE24-0631
認定単位: 2.5 単位

(一社)全国土木施工管理技士会連合会



継続学習制度(CPDS)

プログラム

プログラム登録番号: 899074

形態コード 101-1分野 1unit

形態コード 101-2分野 2unit

(101-2分野は年間上限6unit)

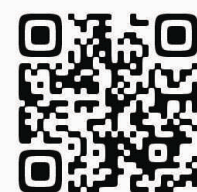
3 unit

お申し込み

寒地土木研究所HP

<https://chouseikan.ceri.go.jp/web/event/>

をご覧ください。



函館市民会館(小ホール)

〒042-0932

北海道函館市湯川町1丁目32-1

TEL:0138-57-3111

<http://www.zaidan-hakodate.com/kaikan/>



函館市HP・函館市民会館

※公共交通機関でお越し願います。

主催 国土交通省北海道開発局 函館開発建設部、国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所、公益社団法人日本技術士会 北海道本部 道南技術士委員会
後援 北海商科大学開発政策研究所、函館市、一般社団法人函館建設業協会、函館測量設計業協会

お問い合わせ先: 寒地土木研究所 寒地技術推進室(直通TEL 011-590-4046)

第44回技術者交流フォーラム事業in函館は、クルーズ船の寄港数増加によりインバウンドの誘客や消費拡大が期待される函館港クルーズ岸壁整備にかかる技術的工夫などについて、産学官がその技術開発に関する情報交換を行い、交流を図ることを目的に開催します。

《 基 調 講 演 》

➤ 13:40~14:40



『交流型地域におけるまちづくりとは ～観光とインフラの持続可能な関係のために～』

北海商科大学 商学部 観光産業学科

教 授 池ノ上 真 一 氏

国内外の観光客に注目される函館は、古くから交流・交易の拠点として形成された地域です。しかしこの100年は、運輸技術の発展に伴い時空が変容し、立地による優位性が失われ、地域としても衰退の一途を辿っているように見えます。人口減少数が道内最大、消滅可能性自治体の代表格となった函館は、果たしてこのまま消滅するのか。移動、インフラ、地域資源、ITなど、観光という現象を支える要素に視点を当てて、今後の函館のような交流型地域のまちづくりのあり方を考えます。

《 技術者交流（展示・休憩） 》

➤ 14:40~15:10



技術者交流の場として展示コーナーを設けますので、どうぞご覧ください。（講演会場の隣で開催しております）

【出展者一覧】

池ノ上真一氏、函館市、函館開発建設部、
寒地土木研究所、道南技術士委員会

《 一 般 講 演 》

➤ 15:10~16:50



➤ 15:10~15:40

『函館港の整備と地域振興に向けて』

函館開発建設部 函館港湾事務所 所長 三岡 照之

函館港若松地区クルーズ船ターミナルの整備の概要を事例に、観光を始めとした函館地域の産業振興に函館港が如何に寄与してきたか紹介します。



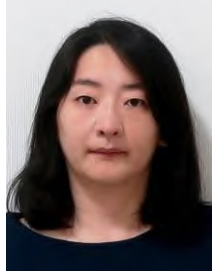
➤ 15:40~16:10

『埋もれた地域資源を発掘し価値創造する取り組み事例』

公益社団法人日本技術士会 北海道本部 道南技術士委員会代表

兼 函館湾岸価値創造プロジェクト会長 布村 重樹

GRHABIPは函館周辺の埋もれた地域資源を発掘し、価値創造し実証する産学官連携の試みです。コンクリート遺産の価値創造から更に埋もれた地域資源発掘事例を紹介します。



➤ 16:20~16:50

『魅力ある海辺の空間整備に向けたみなとまちづくり』

寒地土木研究所地域景観チーム 研究員 榎本 碧

これからの函館の魅力あるみなとまちづくりを考えるにあたり、国内のみなとまちづくりにおける公共空間整備の事例や、景観整備手法に関する寒地土木研究所の研究成果を紹介します。

参加者の皆様へお願い

申し込み時のQRコード画像をスマートフォンに保存もしくは印刷してご持参願います。

ご来場のみなさまには下記項目にご協力をお願い申し上げます。

- ・ 国や自治体の方針等により、急遽開催の中止や延期となる場合があります。
- ・ 事前申込をされずに来場された方は、受付にて申込み用紙に必要事項を記載のうえ参加してください。